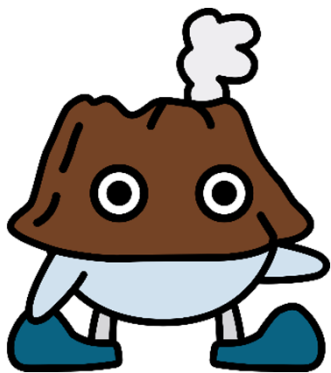




# 向こう3か月の 天候の見通し

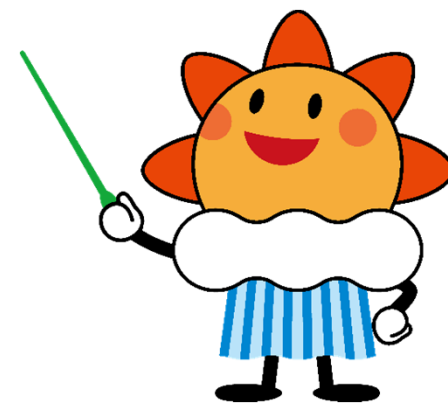
エルニーニョ現象時の夏の海洋と大気の特徴  
3か月予報（5～7月）



ぼるけん

福岡管区気象台 気象防災部予報課  
（令和8年4月21日14時発表）

令和8年4月22日 27枚目を更新しました



はれるん

# 5～7月の予報のポイントと留意点

## 予報のポイント

- 向こう3か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、**高い**でしょう。

## 留意していただきたいこと

- 期間を通して**高温**の予報。
- 早めの**暑さへの備え**（熱中症対策等、農作物・家畜の管理等）をお願いします。

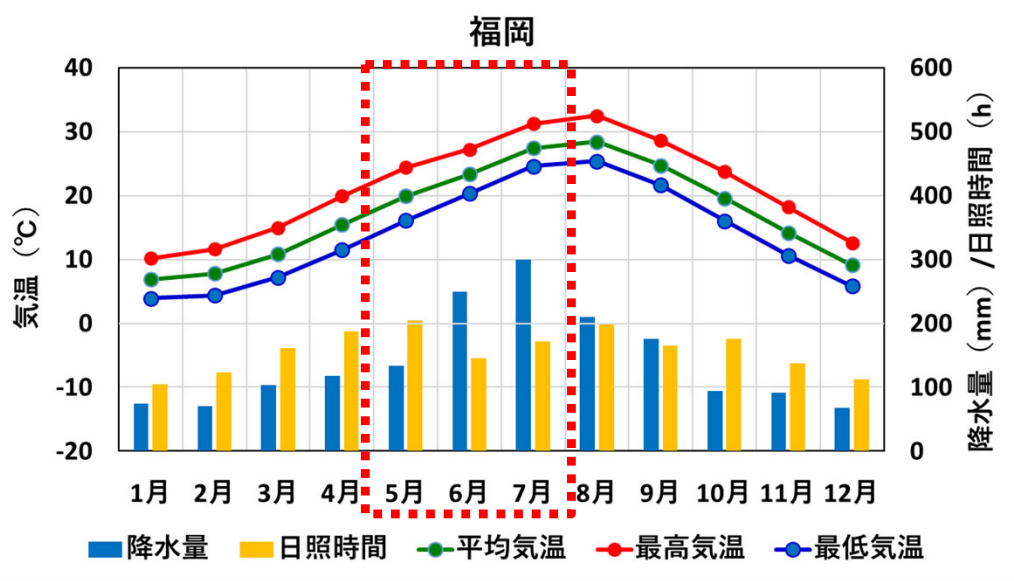
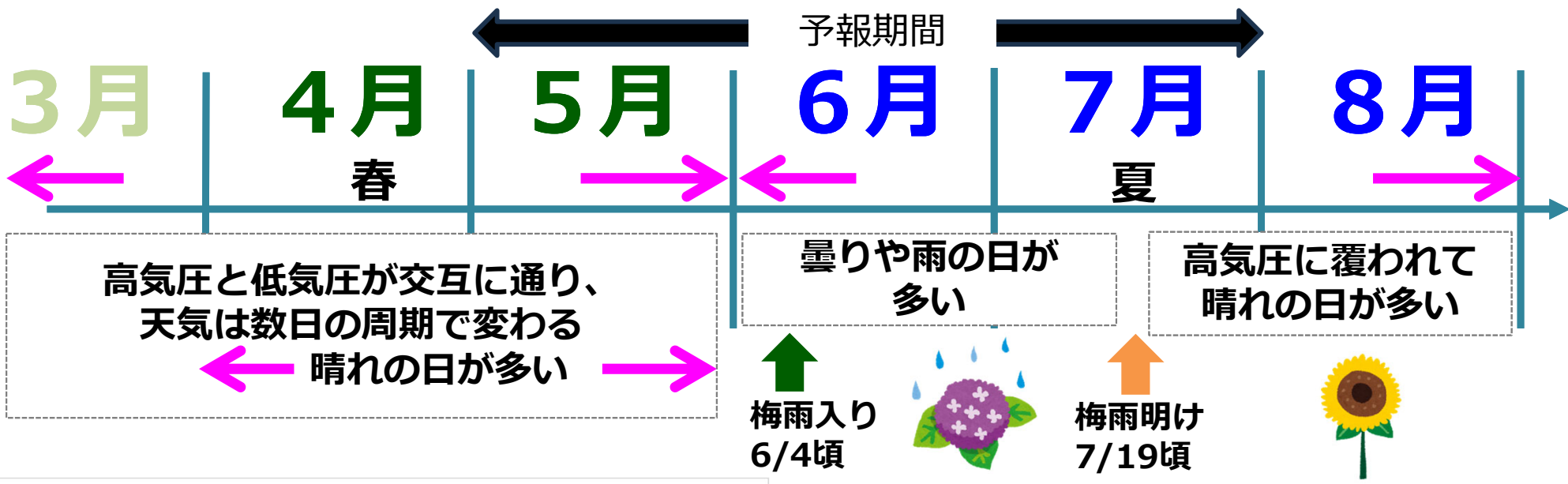
エルニーニョ現象になる見込みですが気温は高い



- 降水量は**ほぼ平年並**の予報ですが、**梅雨前線の活動が活発となる時期がある**見込みです。
- 近年は梅雨時期の**大雨の発生頻度は増加**しています。最新の気象情報等を活用いただき、**大雨への備え**をお願いします。

※新しい予測資料を踏まえ暖候期の天候について検討しましたが、2月24日に発表した暖候期予報の内容に変更はありません。梅雨の時期の降水量については、この3か月予報をご利用ください。

# 春～夏の九州北部地方の平年の天候経過



気象要素の月ごとの季節変化

春から夏への季節進行とともに  
**気温上昇、降水量増加**

年降水量の約1/3が  
6～7月（梅雨期間）に降る

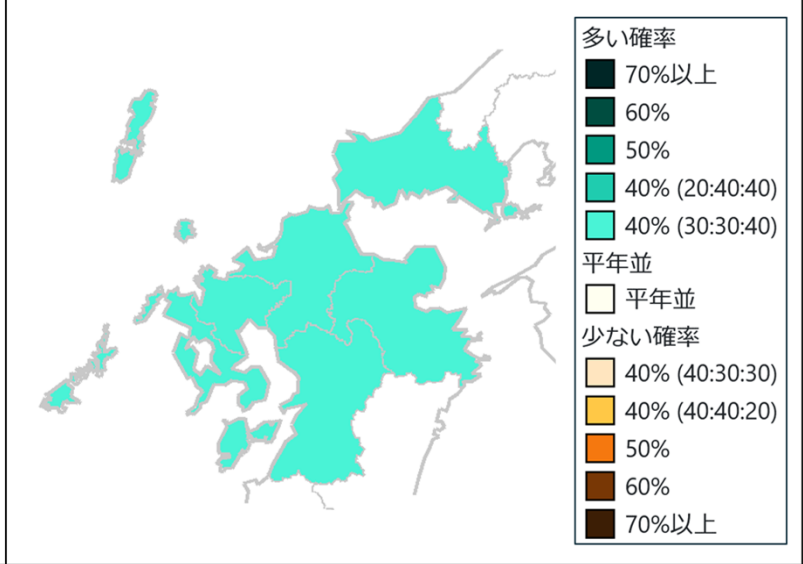
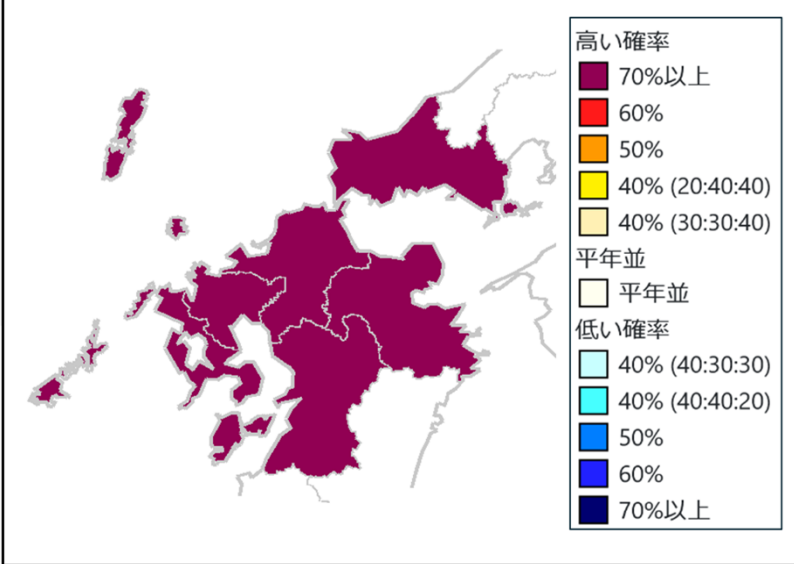
年降水量平年値（福岡）：1686.9mm  
梅雨期間（6～7月）  
降水量平年値（福岡）：548.7mm

# 天候の見通し（5～7月）

## 向こう3か月（5～7月）の平均気温・降水量

九州北部地方 (山口県を含む)	<b>平均気温（3か月）</b> <b>5 ～ 7 月</b>	<b>降水量（3か月）</b> <b>5 ～ 7 月</b>
	低 10 並 20 高 <b>70</b> <b>高い</b> 見込み	少 30 並 30 多 <b>40</b> <b>ほぼ平年並</b> の見込み

数値は予想される  
出現確率です



# 天候の見通し (月別)

	5月	6月	7月
天候	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。	期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
気温	低 10 並 30 高 <b>60</b> <b>高い</b> 見込み	低 10 並 30 高 <b>60</b> <b>高い</b> 見込み	低 10 並 30 高 <b>60</b> <b>高い</b> 見込み
降水	少 30 並 30 多 <b>40</b> ほぼ平年並 の見込み	少 30 並 30 多 <b>40</b> ほぼ平年並 の見込み	少 30 並 <b>40</b> 多 30 ほぼ平年並 の見込み

### 気温

高い確率

- 70%以上
- 60%
- 50%
- 40% (20:40:40)
- 40% (30:30:40)

平年並

- 平年並

低い確率

- 40% (40:30:30)
- 40% (40:40:20)
- 50%
- 60%
- 70%以上

### 降水量

多い確率

- 70%以上
- 60%
- 50%
- 40% (20:40:40)
- 40% (30:30:40)

平年並

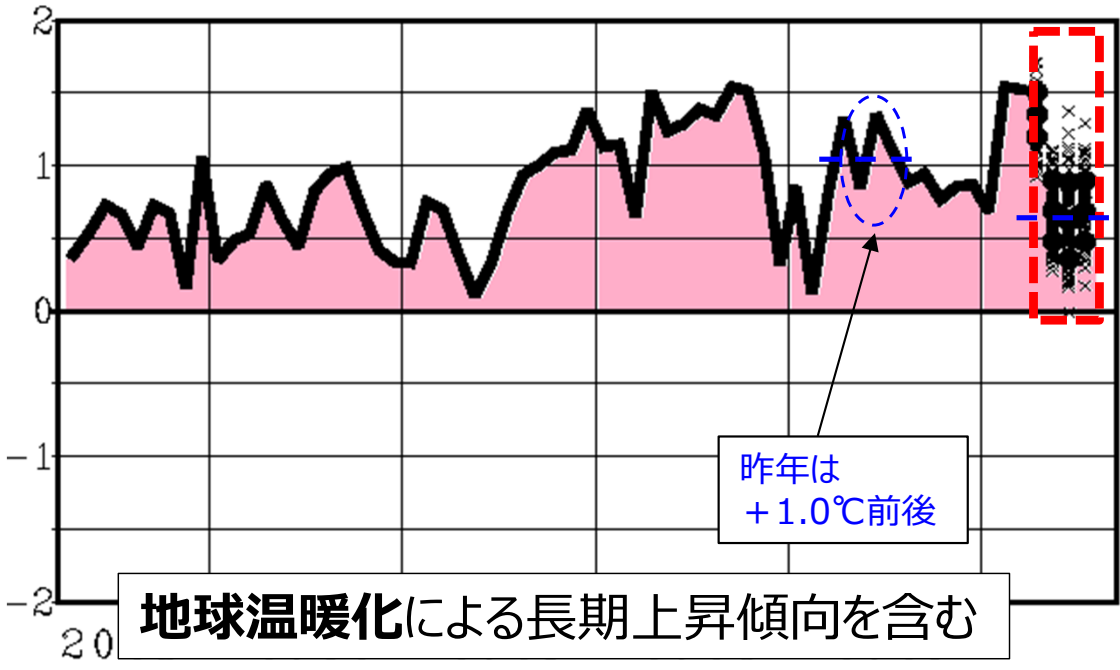
- 平年並

少ない確率

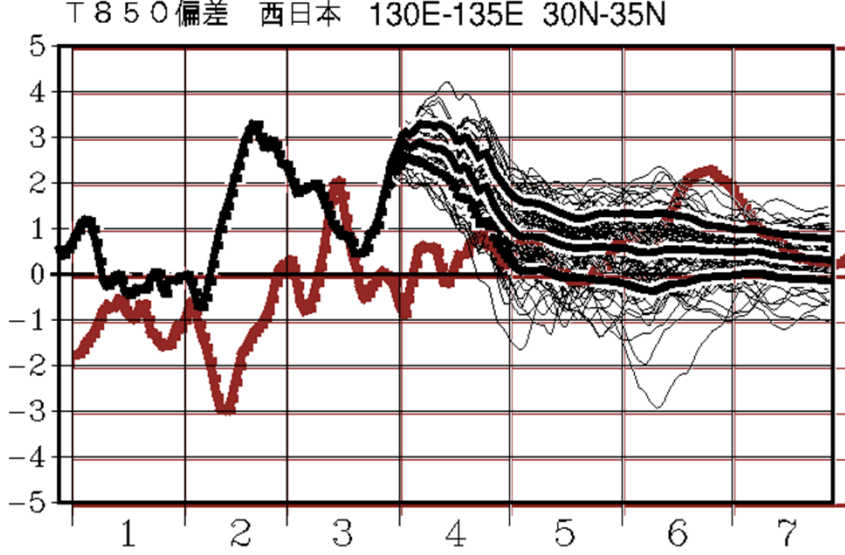
- 40% (40:30:30)
- 40% (40:40:20)
- 50%
- 60%
- 70%以上

# 大気全体の温度の実況および予測

北半球中緯度の大気の温度は**高い**状態が続く。



西日本の上空約1,500m付近の  
気温平年差



茶色は昨年の実況値

北半球中緯度の大気の温度の解析値と予測  
対流圏（高さ約1,500～10,000m）の温度の平年差

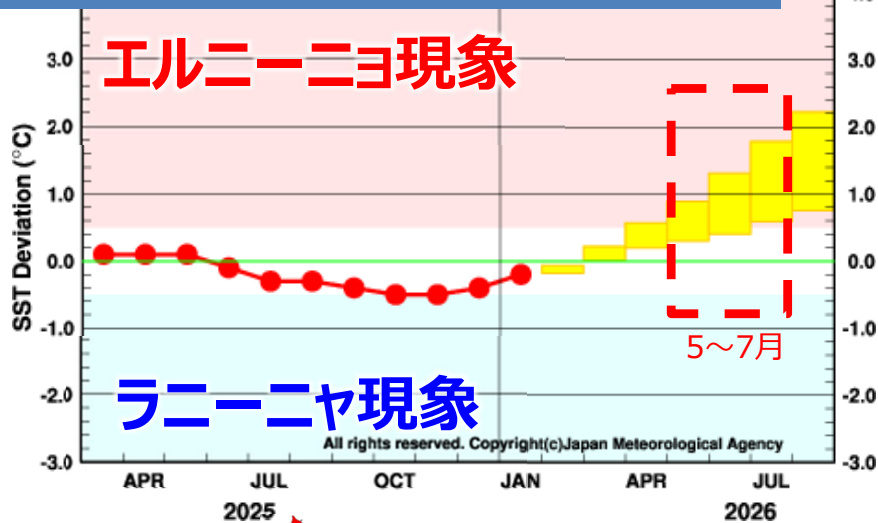
昨年ほどの高温は  
予想されていないが、  
高温に注意。



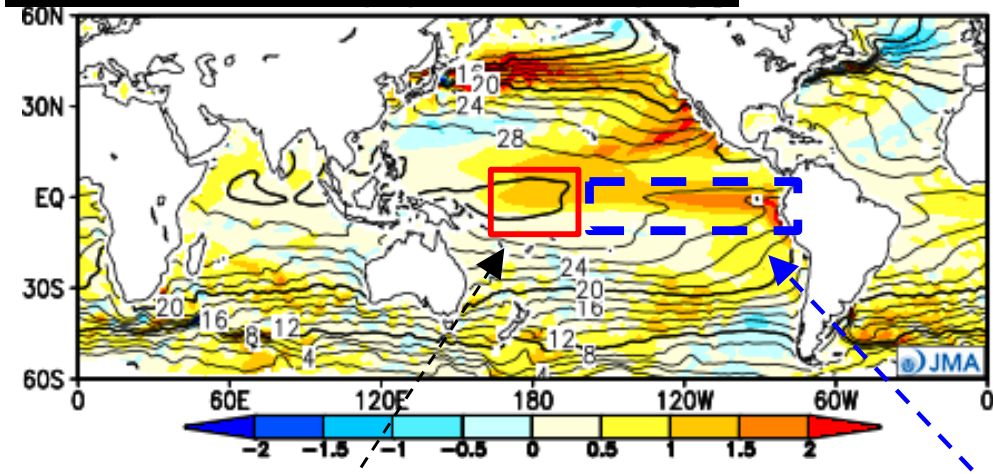
# 熱帯域の海面水温の予測

- ✓ ラニーニャ現象に近い状態は解消し、**エルニーニョ現象もラニーニャ現象も発生していない平常の状態**となっている。
- ✓ 今後、春の間は平常の状態が続く可能性もある（40%）が、**エルニーニョ現象が発生する可能性の方がより高くなり（60%）、夏にはエルニーニョ現象が発生する可能性が高い（70%）**。

エルニーニョ監視海域の海面水温の基準値の差

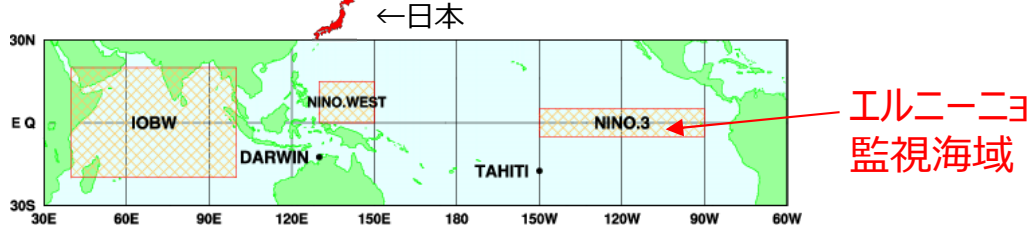


海面水温の予測図（5~7月）



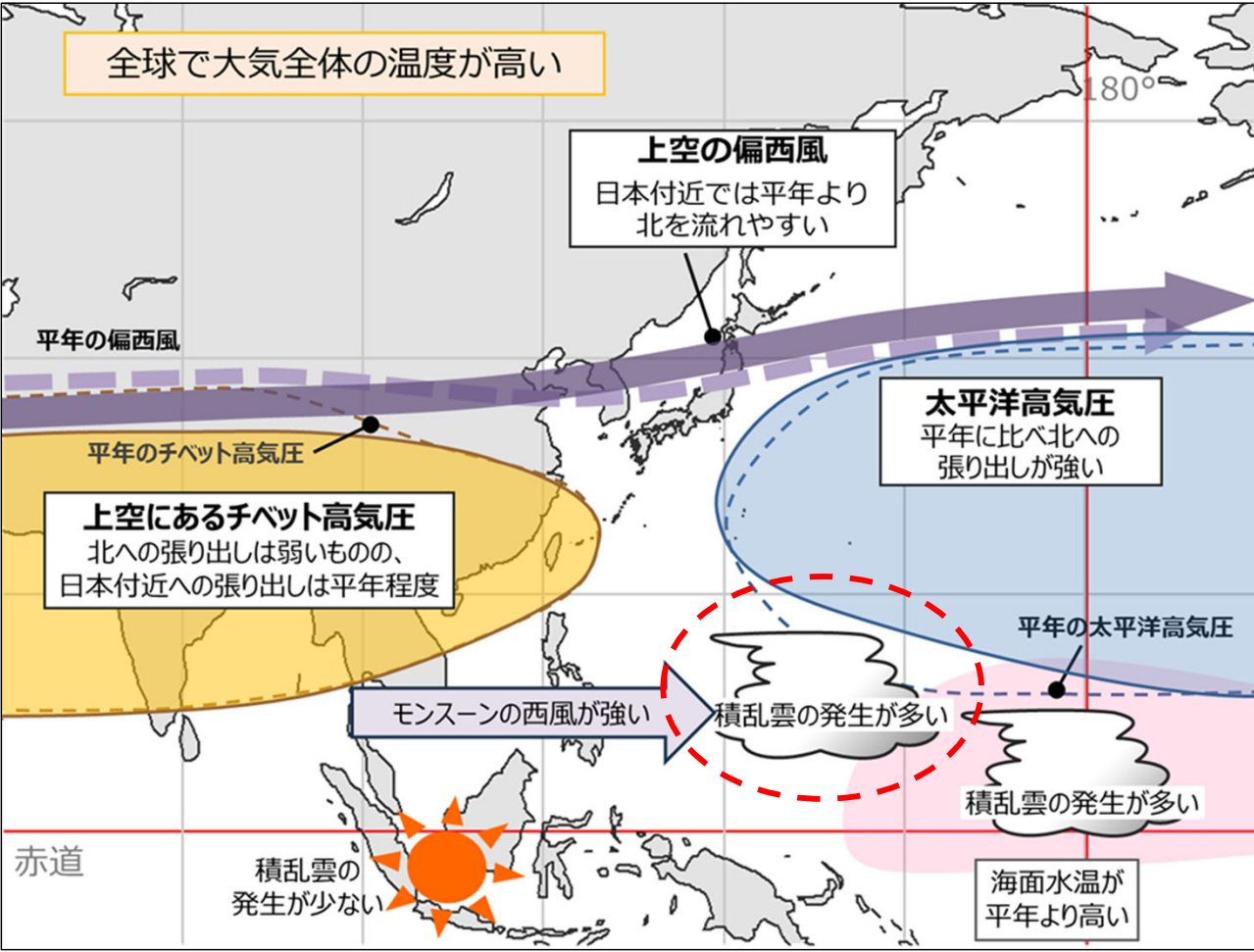
海面水温が高い海域が、  
太平洋赤道域西部  
→ 太平洋赤道域中・東部へ

5~6月を中心に、エルニーニョ現象への移行期で、太平洋赤道域中部でも海面水温が平年よりも高い状況が残る



エルニーニョ監視速報 URL : [https://www.data.jma.go.jp/cpd/elnino/kanshi\\_joho/kanshi\\_joho1.html](https://www.data.jma.go.jp/cpd/elnino/kanshi_joho/kanshi_joho1.html)

# 5～7月の予想される海洋と大気の特徴



## 【熱帯域の海面水温と対流活動】

- エルニーニョ現象が発生する可能性が高く、海面水温は太平洋赤道域の東部から中部で高くなる。
- 積乱雲の発生は、フィリピンの東から太平洋中部で多い一方、インドネシア付近で少ない。

## 気温のポイント

### 高温予想

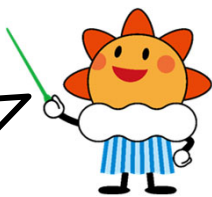
- ✓ 大気全体の温度が**高い**
- ✓ 上空の**偏西風**は日本付近では**平年より北**を流れ、**太平洋高気圧**の北への張り出しが**強い**（チベット高気圧の張り出しは平年程度）。
- ✓ **暖かい空気**に覆われやすい。

## 降水量のポイント

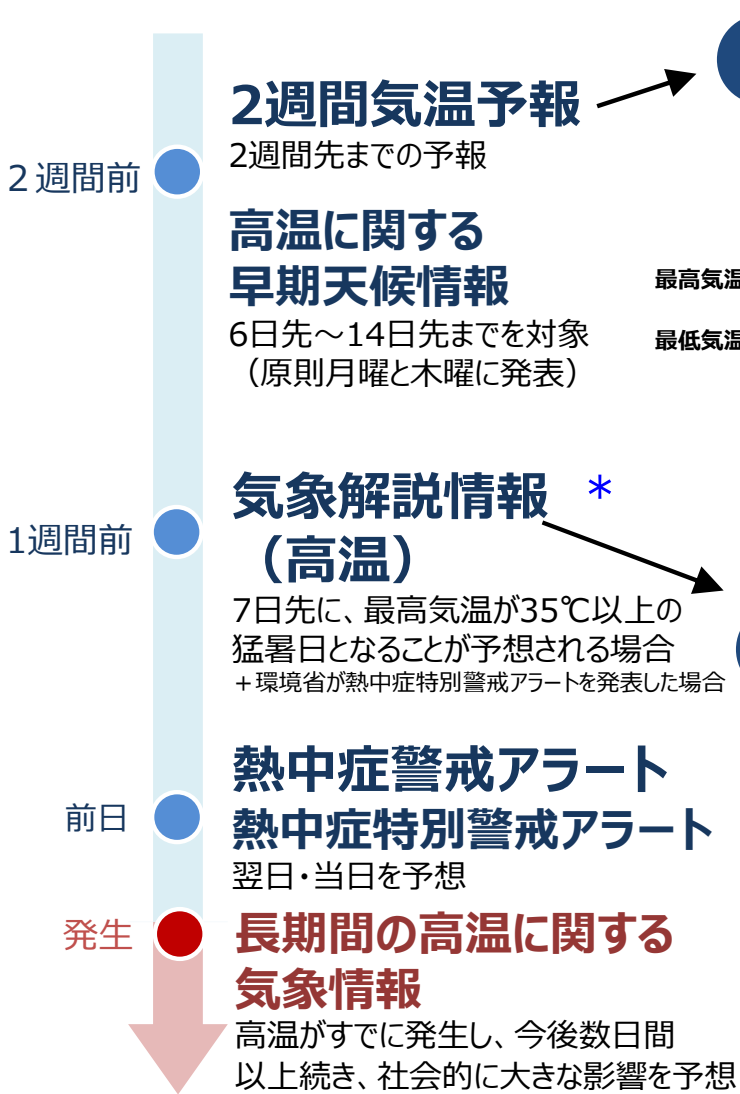
- ✓ **降水量**は**ほぼ平年並**を見込むが、**梅雨期間**は、**梅雨前線の活動が活発**となる時期がある。

○ 通常のエルニーニョ現象との違う点  
(海面水温・積乱雲の発生)

エルニーニョ現象となる見込みですが、**暑さに対する備えを！**  
**大雨に対する備えも！**



# 暑さへの備え～高温に関する気象情報の流れ～



## 2週間気温予報の例

当日	1週目の予報 (日別)							2週目の予報 (5日間平均)				
	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目 (6～10日)	9日目 (7～11日)	10日目 (8～12日)	11日目 (9～13日)	12日目 (10～14日)
最高気温	26	26	27	29	32	32	33	34	35	35	35	35
最低気温	23	23	23	24	25	25	25	26	26	26	26	26

\*5/29～ 高温に関する気象情報から名称変更予定

- かなり高い (Red)
- 高い (Orange)
- 平年並 (White)
- 低い (Light Blue)
- かなり低い (Dark Blue)

## 気象解説情報 (高温) の例 \*

九州北部地方 (山口県を含む) 気象解説情報 (高温) 第◇号  
令和〇年8月5日15時00分 福岡管区気象台発表

(見出し)

九州北部地方 (山口県を含む) では、8月8日から12日頃にかけて、最高気温が35度以上となるところがあるでしょう。

(本文)

九州北部地方 (山口県を含む) では、8月8日から12日頃にかけて高気圧に覆われて晴れるため、**最高気温が35度以上の猛暑日**となる所がある見込みです。熱中症などの健康管理、農作物や家畜の管理などに注意してください。

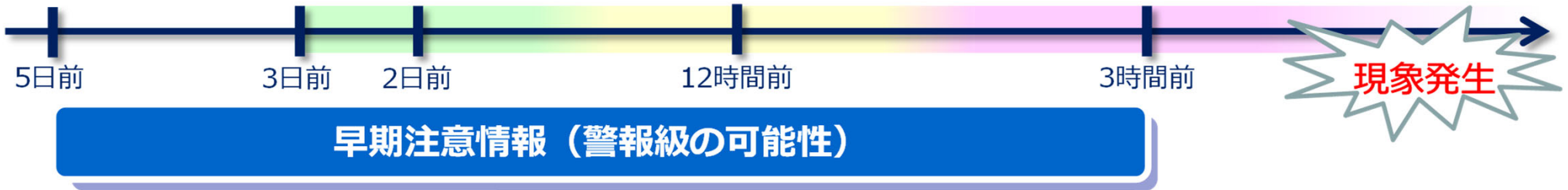
急な気温上昇！  
暑さに慣れないかも？  
熱中症に注意しよう！

農作物・家畜の高温障害にも注意



# 大雨への備え～大雨に関する気象情報の流れ～

- **大雨の発生の5日前から、早期注意情報で、警報級の大雨の可能性を**発表しています。
  - 早期注意情報や時系列情報等は、心構えを高め、事前の体制確保の検討に
- **キキクルや気象防災速報は、避難の判断や後押しに**活用してください。 （一部情報は5/29運用開始）



時系列情報（明日までの警報等の見通し）

大雨・土砂災害・河川氾濫の警戒レベル  
注意報・警報・危険警報・特別警報

## 早期注意情報（大雨）の例

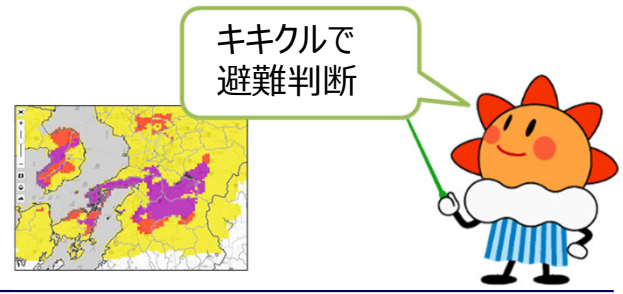
	当日	1日後		2日後		3日後	4日後	5日後
		00-06	06-12	12-18	18-24			
早期注意情報	18-24	00-06	06-12	12-18	18-24	00-12	12-24	
大雨	-	-	-	-	-	-	-	
土砂災害	-	-	-	-	-	-	-	
						[中]	[高]	[中]

**キキクル**

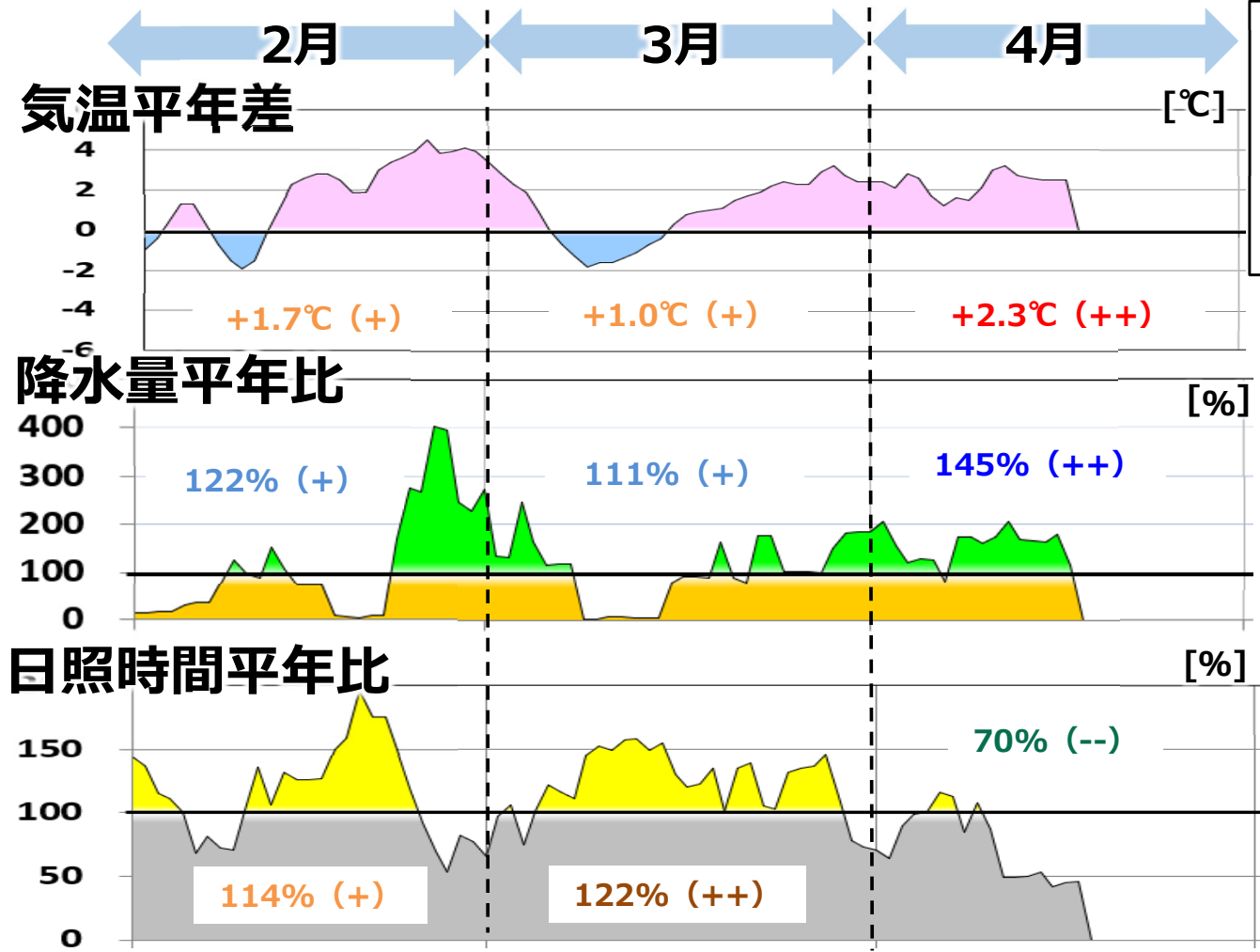
**気象防災速報**



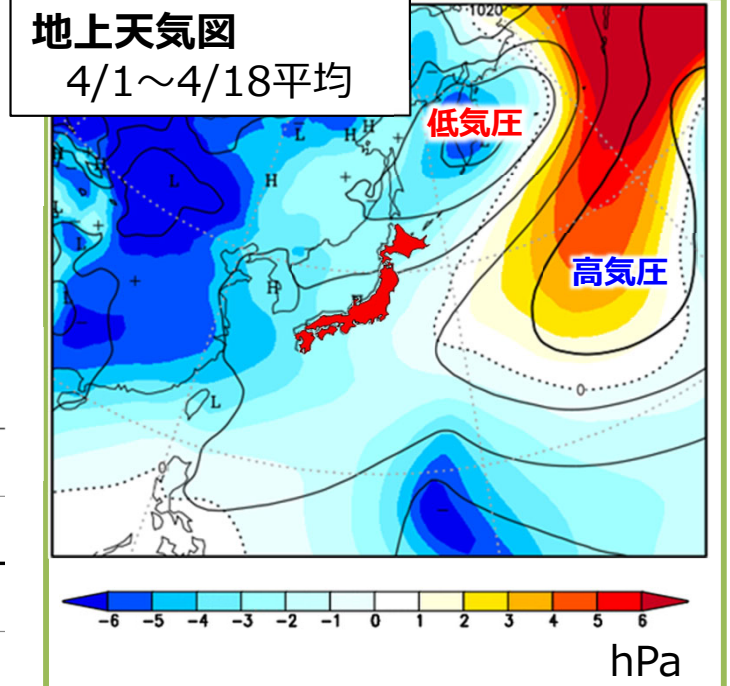
3～5日後は大雨の可能性。  
今のうちに確認・準備しておこう。



# 九州北部地方の天候経過 (2~4月)



**【4月の天候】**  
 低気圧や前線の影響を受けやすかったため、降水量はかなり多く、日照時間はかなり少なかった。また、日本付近を通過した低気圧に向かって暖かい空気が流れ込みやすかったため、気温はかなり高かった。



カムチャツカ半島付近で低気圧が強い一方、日本の東海上から南東海上で高気圧が相対的に強かった。高気圧周辺を吹く、暖かく湿った空気が流れ込みやすく、本州付近を低気圧が通過した際に、まとまった降水となった。

**階級区分値**

(++)	: かなり高い/かなり多い
(+)	: 高い/多い
(0)	: 平年並
(-)	: 低い/少ない
(--)	: かなり低い/かなり少ない

数値は月平年差 (比) ・ 階級区分値  
 4月の値は19日までの暫定値  
 グラフは5日移動平均値でプロット

# 5～7月の見通しのまとめ

## 予報のポイント

- 向こう3か月の気温は、**暖かい空気に覆われやすい**ため、**高い**でしょう。

## 留意していただきたいこと

- 期間を通して**高温**の予報。
- 早めの**暑さへの備え**（熱中症対策等、農作物・家畜の管理等）をお願いします。

エルニーニョ現象になる見込みですが気温は高い



- 降水量は**ほぼ平年並**の予報ですが、**梅雨前線の活動が活発となる時期がある**見込みです。
- 近年は梅雨時期の**大雨の発生頻度は増加**しています。最新の気象情報等を活用いただき、**大雨への備え**をお願いします。

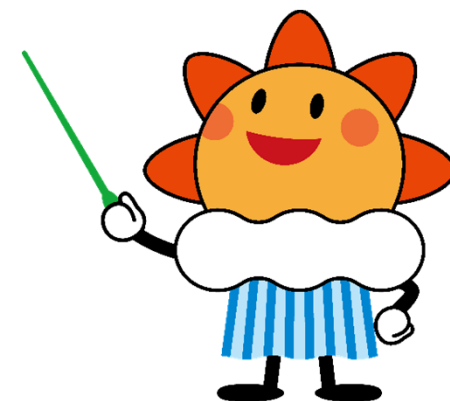
次回の3か月予報の発表は、**5月19日（火）14時**です。



## 参考資料



ぼるけん



はれるん

# 最高気温が40℃以上の日を「酷暑日」に

最高気温 40℃以上の日の名称について、気象庁ホームページで実施したアンケート結果や有識者のご意見を踏まえて「酷暑日」と決定しました。

- ✓ アンケート実施期間  
今年の2/27～3/29
- ✓ 総回答数  
478,296



4割以上の方の回答は  
**酷暑日**

アンケートで最も多く支持を集め、有識者からも社会的になじみがあり、日本語としても適切である旨の意見をいただき、適切な名称と判断し

最高気温40℃以上の日の名称を、

# 酷暑日

と決定しました。



候補名	得票数
酷暑日	202,954
超猛暑日	65,896
極暑日	25,638
炎暑日	22,292
烈暑日	21,930
激暑日	20,282
厳暑日	9,219
熱暑日	8,782
甚暑日	4,595
劇暑日	4,396
大暑日	3,341
盛暑日	1,478
繁暑日	865

気象庁HP (令和8年4月17日発表)  
[https://www.jma.go.jp/jma/press/2604/17a/40degree\\_name.html](https://www.jma.go.jp/jma/press/2604/17a/40degree_name.html)

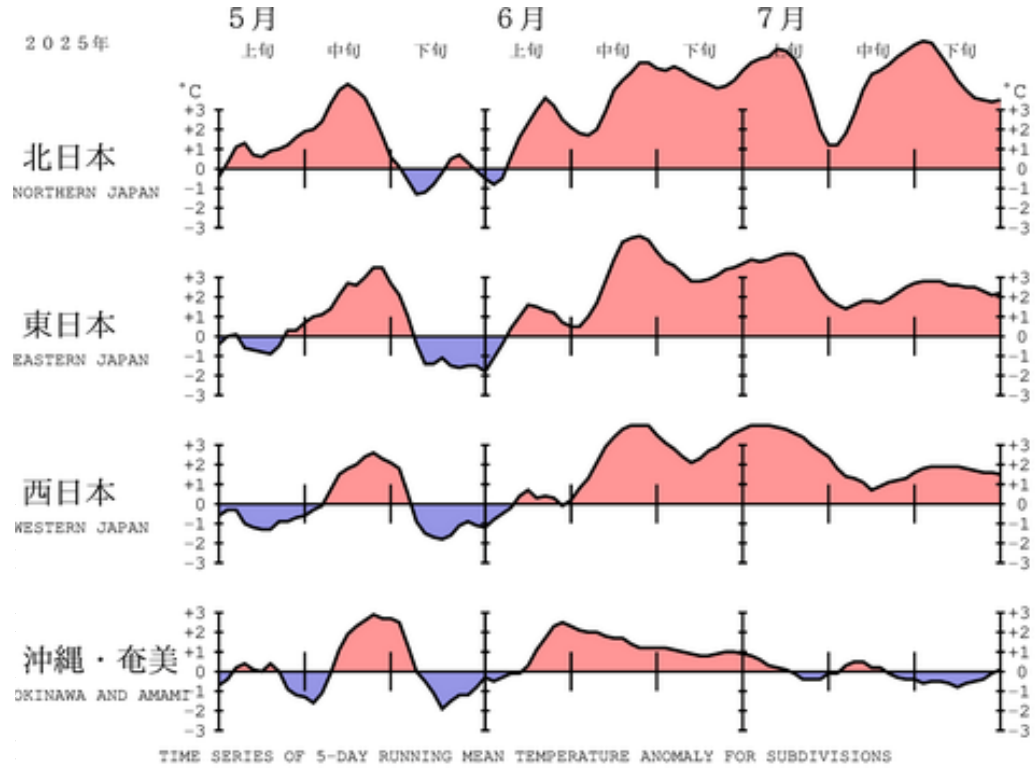
# 最近の5~7月の天候

## 過去10年間の九州北部地方の地域平均の平均気温（平年差℃）と階級

年	5~7月	5月	6月	7月
2025	1.2	-0.3	1.5	2.3
2024	0.9	0.3	0.5	1.7
2023	0.7	0.3	0.7	1.0
2022	0.9	0.5	1.1	1.1
2021	0.6	0.2	0.8	0.8
2020	0.1	0.7	1.3	-1.6
2019	0.0	0.8	0.0	-0.9
2018	0.8	0.6	0.4	1.4
2017	0.6	0.6	-0.3	1.5
2016	0.6	0.9	0.3	0.7

	かなり高い
	高い
	平年並
	低い
	かなり低い

## 2025年 地域平均気温平年差



地域平均気温平年差の5日移動平均時系列  
更新日：2025年8月10日

年の色は、赤：夏にエルニーニョ現象が発生している  
青：夏にラニーニャ現象が発生している

- ・最近10年の3~5月の平均気温は、エルニーニョ現象、ラニーニャ現象の発生の有無に関わらず、全国的に高い年が多い。
- ・昨年（2025年）は、6月以降は日本付近で偏西風が平年より北寄りを流れ、全国的に気温が高く、日本の月平均気温が6月、7月と、それぞれその月として1位の高温となった。5月は東日本太平洋側でかなりの多雨寡照となったが、6月は太平洋側や沖縄・奄美中心に、7月は日本海側を中心に少雨・多照となり、多くの地域で梅雨入り・明けがともにかなり早かった。

# 少雨に関する気象情報 (4/14発表)



筑後川水系、嘉瀬川水系のダム貯水率が回復していないことから、福岡県、佐賀県、大分県を対象に注意を呼びかけ。

## 少雨に関する九州北部地方（山口県を含む）気象情報 第5号 令和8年4月14日11時00分 福岡管区気象台発表

(見出し)

福岡県、佐賀県及び大分県では、昨年10月中旬から降水量の少ない状態が続いています。向こう1か月程度も、これまでの少雨の影響が残る可能性があります。農作物や水の管理等に十分に注意してください。

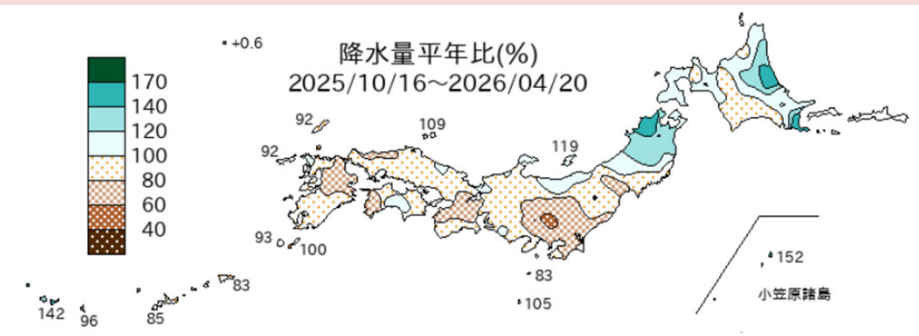
(本文)

福岡県、佐賀県及び大分県では、昨年10月中旬から2月中旬まで、低気圧や前線の影響を受けにくく高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、少雨の状態となりました。その後、まとまった雨の降った日もありましたが、昨年10月16日から本年4月13日までの降水量が平年の7割以下となっている地点があるなど、少雨の状態が解消されていない所があります。

向こう1か月の降水量は平年並か多い見込みですが、これまでの少雨の影響が残る可能性があります。農作物や水の管理等に十分に注意してください。(以下略)

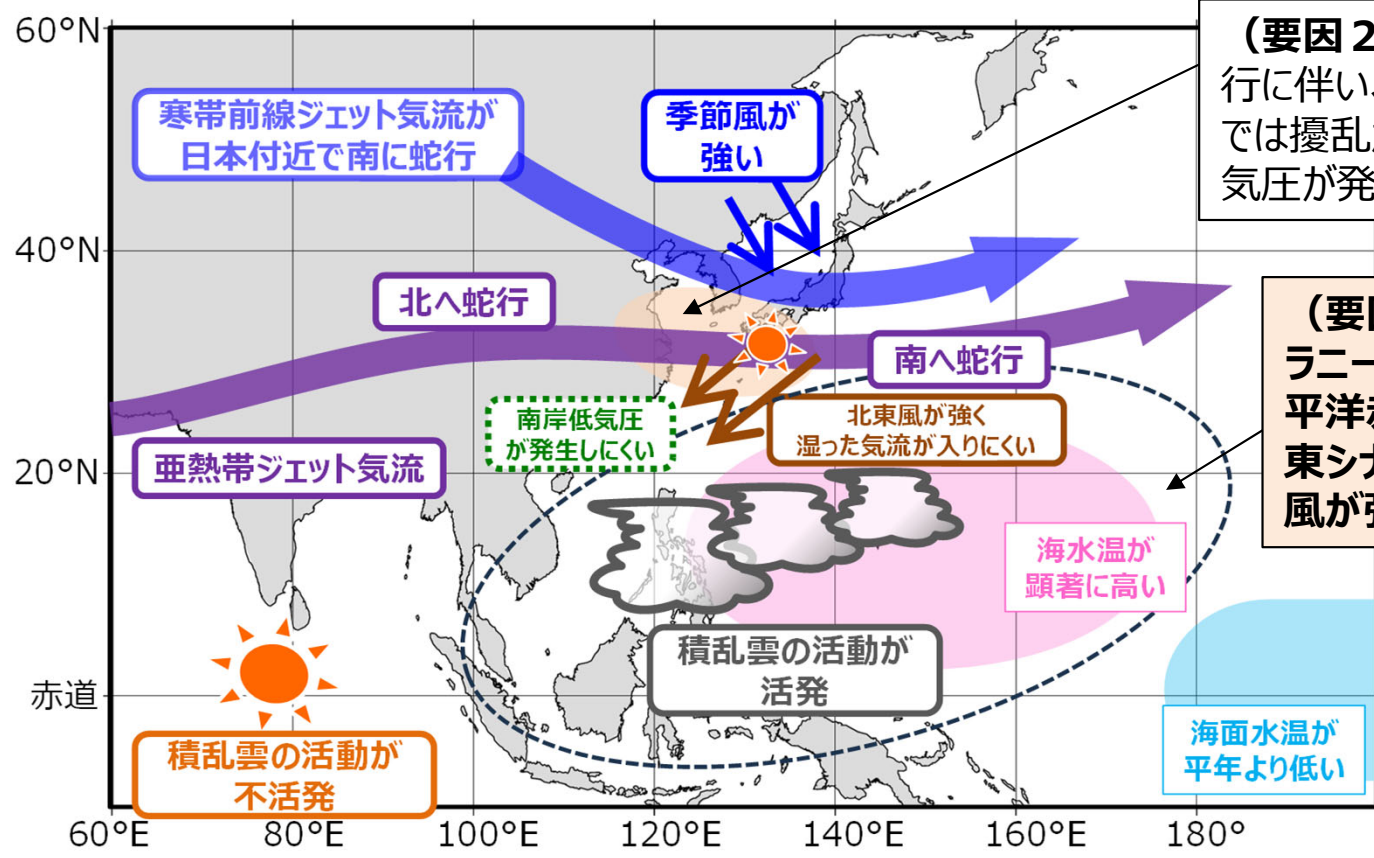
### 発表状況

- 第1号：昨年12/15発表
- 第2号：1/22発表
- 第3号：2/17発表
- 第4号：3/17発表



# 少雨の要因 (1~2月)

✓ 少雨の要因は、フィリピン東方海上で海面水温がかなり高く（ラニーニャ現象に近い海面水温分布）、積乱雲の活動が活発となり、その活発域に向かって吹く北東風が平年より強かったこと、また、大陸からの季節風が強かったため、東シナ海～日本の南で、南よりの暖かく湿った空気が流れ込みにくく、西日本付近を通る低気圧や気圧の谷（南岸低気圧等）が発生しにくかったことが挙げられます（上空の偏西風の流れにより、西日本付近では下降流となり低気圧が発生しにくかったことも要因）。



**(要因2)** 日本付近での偏西風の南への蛇行に伴い、下降流域が南偏。中国南東部付近では擾乱が発達しにくい環境場となり、南岸低気圧が発生しにくい状態。

**(要因1) 主要因**  
ラニーニャ現象に近い海面水温分布（太平洋赤道域中部の暖水が西進）で、東シナ海～日本の南で平年よりも北東の風が強くて、低気圧が発生しにくい。

- 他の要因
- ✓ 華南～東シナ海の下層の南北温度勾配が小さく、低気圧が発生しにくかった。
  - ✓ 日本付近での偏西風の南への蛇行は、ヨーロッパから連なる波列の影響。

# 1か月予報（4/16発表）



歩み続けて150年  
防ぐ災害・守る未来

## 予報のポイント

毎週木曜日14時30分発表

- ✓ 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は**高い**でしょう。期間の前半は、気温が**かなり高くなる見込み**です。
- ✓ 昨年10月中旬から2月中旬までの少雨の影響が解消されていない所があります。向こう1か月の降水量は**ほぼ平年並**の見込みですが、**これまでの少雨の影響が残る可能性**があります。

## 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間

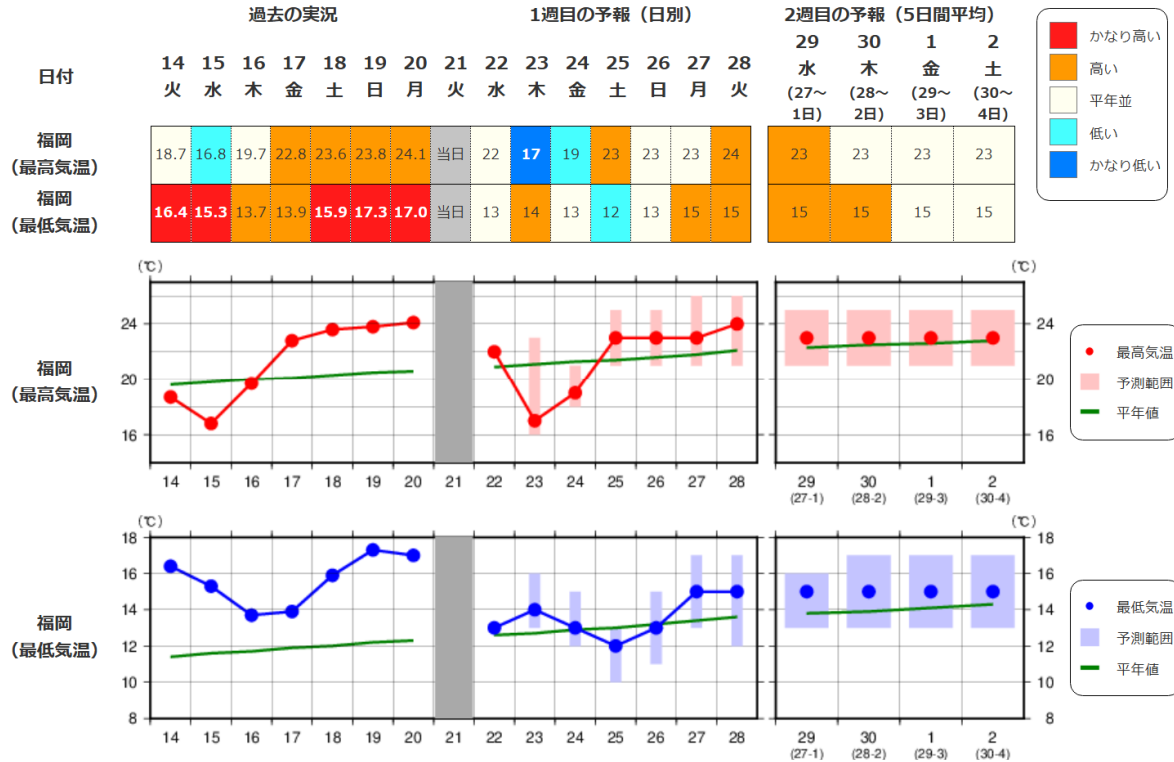
	平均気温（向こう1か月）	降水量（向こう1か月）	日照時間（向こう1か月）
九州北部地方（山口県含む）	低10 並20 高70% <b>高い見込み</b>	少30 並30 多40% <b>ほぼ平年並の見込み</b>	少40 並30 多30% <b>ほぼ平年並の見込み</b>
数値は予想される出現確率（%）です	<p>平均気温（1か月）</p>	<p>降水量（1か月）</p>	<p>日照時間（1か月）</p>

# 2週間気温予報 (4/21 11時更新)

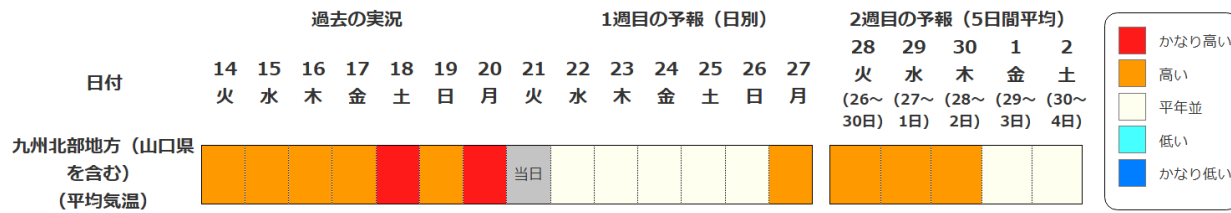
九州北部地方 (山口県を含む) の向こう2週間の気温は、平年並か高いでしょう。

## 2週間気温予報 (福岡)

毎日14時30分発表  
5時/11時/17時更新

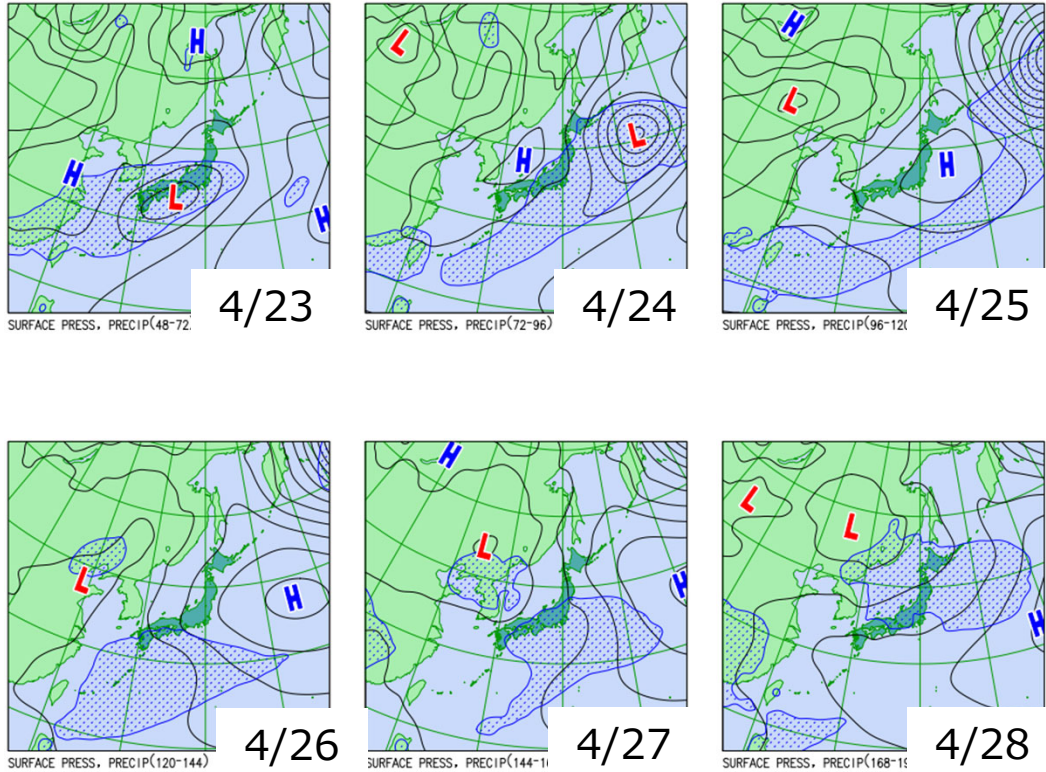


## 2週間気温予報 (九州北部地方)



# 週間天気予報 (4/21 11時発表)

## 予想天気図



L : 低気圧 H : 高気圧  
陰影部 : 24時間で5mm以上の予想降水域

## 週間天気予報 (福岡県)

福岡県の天気予報 (7日先まで)									
2026年04月21日11時 福岡管区気象台 発表									
日付	今日 21日(火)	明日 22日(水)	明後日 23日(木)	24日(金)	25日(土)	26日(日)	27日(月)	28日(火)	
福岡県	晴 	曇後一時雨 	雨 	曇後晴 	曇時々晴 	曇 	曇時々晴 	曇時々晴 	
降水確率(%)	-/-/0/0	0/0/20/60	90	30	30	40	30	30	
信頼度	-	-	-	A	A	B	B	B	
福岡 気温 (°C)	最高	22	22	17 (16~23)	19 (18~21)	23 (21~25)	23 (21~25)	23 (21~26)	24 (21~26)
	最低	-	13	14 (13~16)	13 (12~15)	12 (10~13)	13 (11~15)	15 (13~17)	15 (12~17)
向こう一週間 (明日から7日先まで) の平年値									
福岡				降水量の7日間合計		最低気温		最高気温	
				平年並 13 - 33mm		13.0°C		21.4°C	

## 向こう1週間の雨の見通し

晴れる日もありますが、**低気圧**や**湿った空気の影響**で雲が広がりやすく、**曇り**や**雨の日が多い**。  
**福岡**の降水量は **多い** でしょう (平年並の範囲 : 13 ~ 33 mm) 。

# 大雨の発生頻度の変化



気象庁HP  
大雨や猛暑日など（極端現象）のこれまでの変化



歩み続けて150年  
防ぐ災害・守る未来

大雨の年間発生頻度は増加しており、

- より強度の強い雨ほど頻度の増加率が大きい
- 1980年頃と比較して、おおむね2倍程度(※)に頻度が増加している  
(※ 1時間降水量80mm以上、3時間降水量150mm以上、日降水量300mm以上など強度の強い雨)

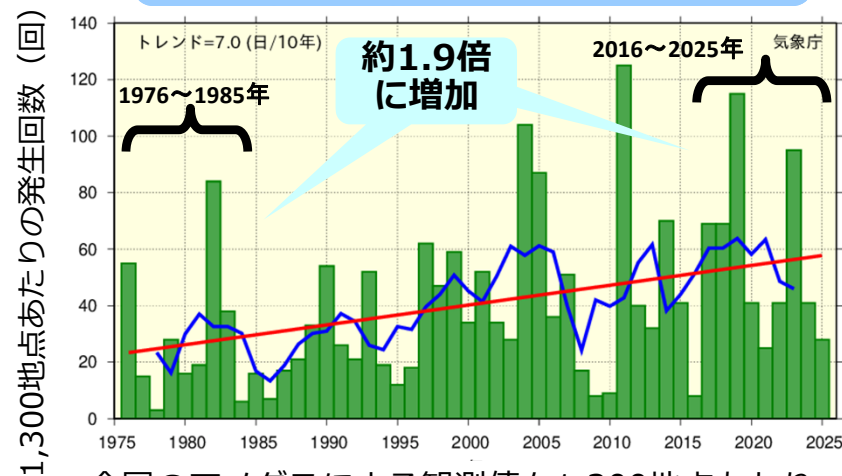
これらの変化には、地球温暖化が影響している可能性がある  
⇒大雨に対する備えの必要性を認識していただきたい

## 変化の倍率 (2016-2025年平均 / 1976-1985年平均)

1時間降水量50mm以上	約1.5倍 (約226回→約340回)
1時間降水量80mm以上	約1.8倍 (約14回→約25回)
1時間降水量100mm以上	約2.0倍 (約2.2回→約4.4回)
3時間降水量100mm以上	約1.6倍 (約155回→約248回)
3時間降水量150mm以上	約1.8倍 (約19回→約33回)
3時間降水量200mm以上	約2.1倍 (約2.8回→約5.9回)
日降水量200mm以上	約1.5倍 (約160日→約240日)
日降水量300mm以上	約1.9倍 (約28日→約53日)
日降水量400mm以上	約2.1倍 (約6.4日→約13日)

- 変化の倍率は、最初の10年間（1976～1985年）と最近10年間（2016～2025年）の比。
- 回数及び日数はアメダス1,300地点あたりの換算値。

## 日降水量300mm以上の大雨の年間日数 (1976年～)



- 全国のアメダスによる観測値を1,300地点あたりに換算した値
- 棒グラフ（緑色）は各年の値、青線は5年移動平均値、赤い直線は長期変化傾向を示す。

あるいは、以下のような幅を持った表現もできる。ただし、数値は統計手法や期間等で変わりうることに留意。

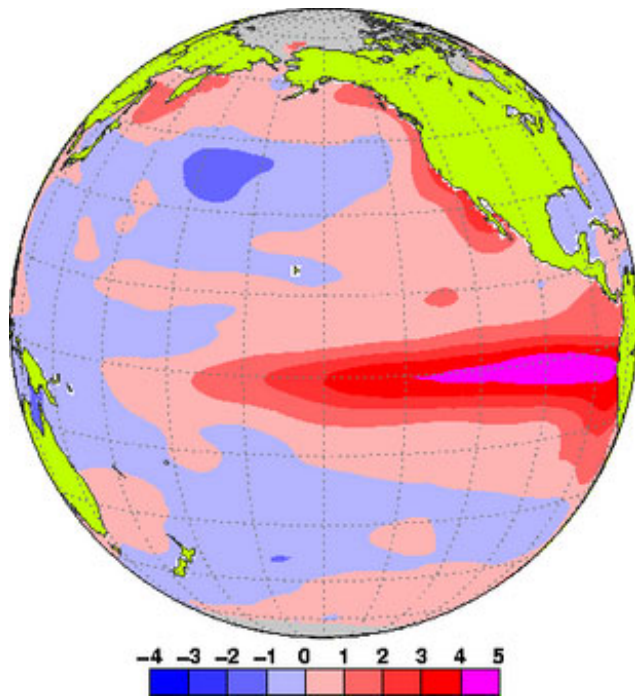
1980年頃と比較して、約1.8倍～約2.1倍(※)に頻度が増加している

(※ 1時間降水量80mm以上、3時間降水量150mm以上、日降水量300mm以上など強度の強い雨。統計期間は1976～2025年)

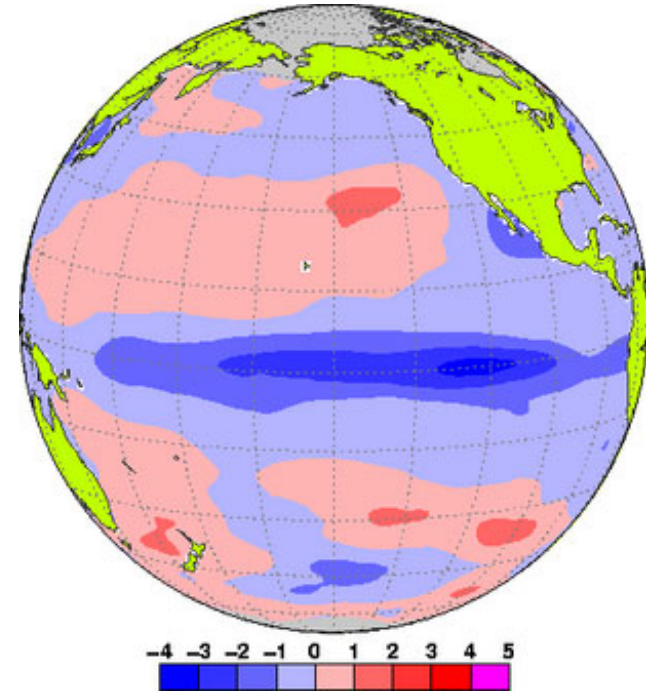
# エルニーニョ現象・ラニーニャ現象①

エルニーニョ現象とは、太平洋赤道域の日付変更線付近から南米沿岸にかけて海面水温が平年より高くなり、その状態が1年程度続く現象です。逆に、同じ海域で海面水温が平年より低い状態が続く現象はラニーニャ現象と呼ばれ、それぞれ数年おきに発生します。エルニーニョ現象やラニーニャ現象は、日本を含め世界中の異常な天候の要因となり得ると考えられています。

## 月平均海面水温平年偏差



エルニーニョ現象発生時  
(1997年11月)



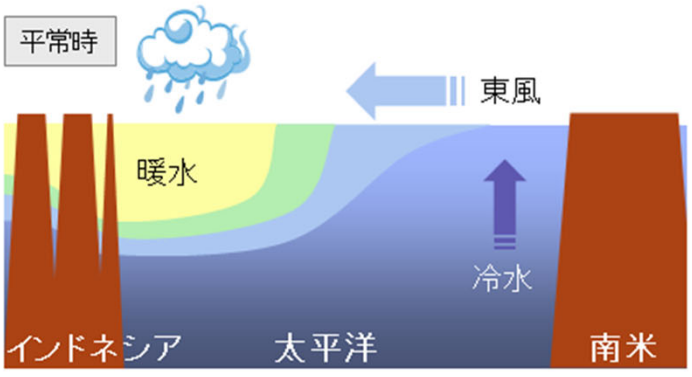
ラニーニャ現象発生時  
(1988年12月)

気象庁ホームページ (エルニーニョ/ラニーニャ現象とは)

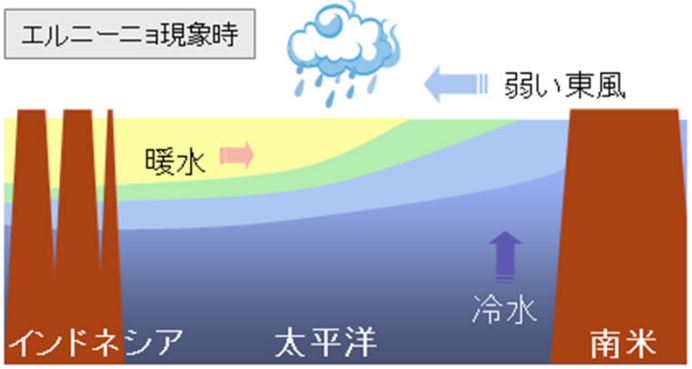
[https://www.data.jma.go.jp/cpd/data/el\\_nino/learning/faq/whatiselnino.html](https://www.data.jma.go.jp/cpd/data/el_nino/learning/faq/whatiselnino.html)

# エルニーニョ現象・ラニーニャ現象②

## 平常時の状態

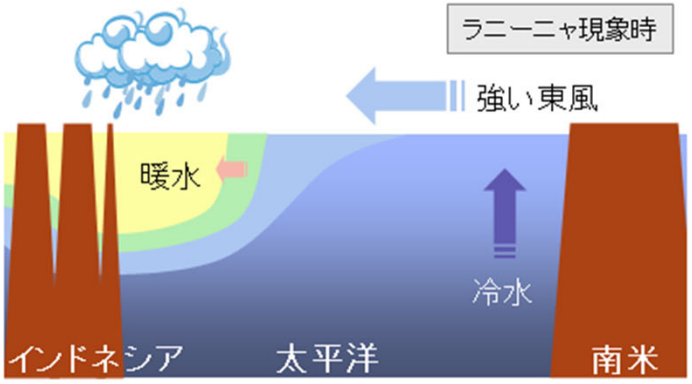


太平洋の熱帯域では、貿易風と呼ばれる東風が常に吹いているため、海面付近の暖かい海水が太平洋の西側に吹き寄せられています。西部のインドネシア近海では海面下数百メートルまでの表層に暖かい海水が蓄積し、東部の南米沖では、この東風と地球の自転の効果によって深いところから冷たい海水が海面近くに湧き上がっています。このため、海面水温は太平洋赤道域の西部で高く、東部で低くなっています。海面水温の高い太平洋西部では、海面からの蒸発が盛んで、大気中に大量の水蒸気が供給され、上空で積乱雲が盛んに発生します。



## エルニーニョ現象時の状態

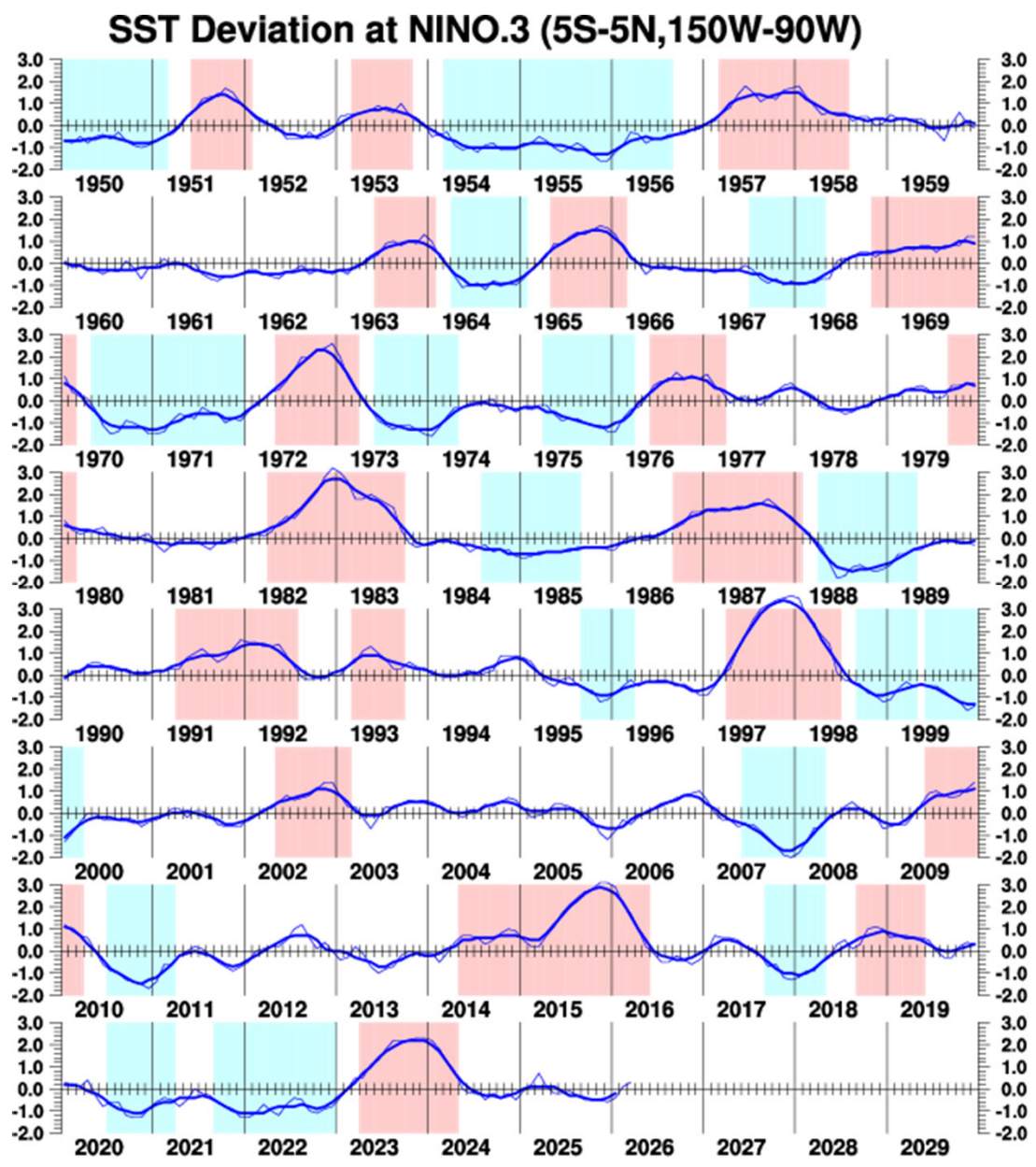
エルニーニョ現象が発生している時には、東風が平常時よりも弱くなり、西部に溜まっていた暖かい海水が東方へ広がるとともに、東部では冷たい水の湧き上がりが弱まっています。このため、太平洋赤道域の中部から東部では、海面水温が平常時よりも高くなっています。エルニーニョ現象発生時は、積乱雲が盛んに発生する海域が平常時より東へ移ります。



## ラニーニャ現象時の状態

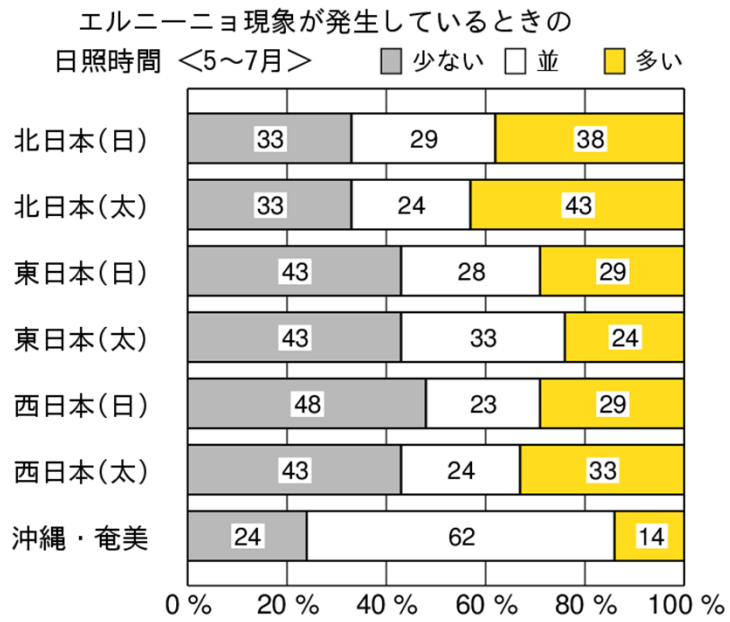
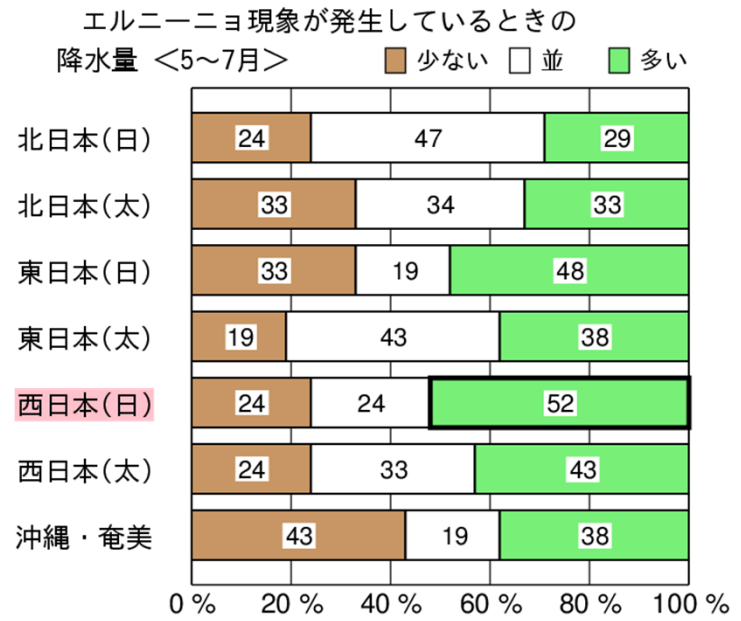
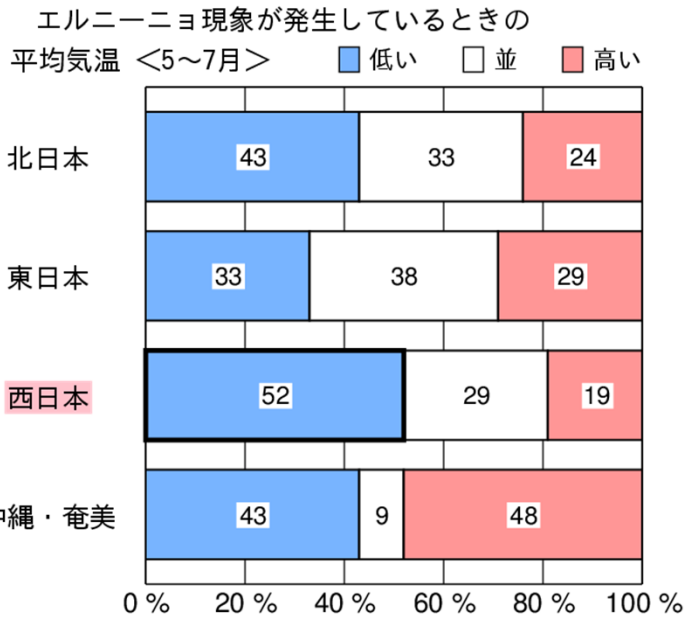
ラニーニャ現象が発生している時には、東風が平常時よりも強くなり、西部に暖かい海水がより厚く蓄積する一方、東部では冷たい水の湧き上がりは平常時より強くなります。このため、太平洋赤道域の中部から東部では、海面水温が平常時よりも低くなっています。ラニーニャ現象発生時は、インドネシア近海の海上では積乱雲がいつも盛んに発生します。

# エルニーニョ現象・ラニーニャ現象の発生時期



エルニーニョ現象			ラニーニャ現象		
発生期間	季節数	差の最大値 (月平均)	発生期間	季節数	差の最小値 (月平均)
			1949年秋～1950/51年冬	6	-1.0
1951年夏～1951/52年冬	3	+1.7			
1953年春～1953年秋	3	+1.0	1954年春～1956年夏	10	-1.6
1957年春～1958年夏	6	+1.8			
1963年夏～1963/64年冬	3	+1.3	1964年春～1964/65年冬	4	-1.2
1965年春～1965/66年冬	4	+1.7	1967年夏～1968年春	4	-1.0
1968年秋～1969/70年冬	6	+1.2	1970年春～1971/72年冬	8	-1.5
1972年春～1973年春	5	+2.6	1973年夏～1974年春	4	-1.6
			1975年春～1976年春	5	-1.4
1976年夏～1977年春	4	+1.3			
1979年秋～1979/80年冬	2	+0.8			
1982年春～1983年秋	7	+3.2	1984年夏～1985年夏	5	-0.9
1986年秋～1987/88年冬	6	+1.8	1988年春～1989年春	5	-1.8
1991年春～1992年夏	6	+1.6			
1993年春～1993年秋	3	+1.3	1995年秋～1996年春	3	-1.2
1997年春～1998年夏	6	+3.6	1998年秋～1999年春	3	-1.2
			1999年夏～2000年春	4	-1.6
2002年春～2002/03年冬	4	+1.4	2007年夏～2008年春	4	-2.0
2009年夏～2010年春	4	+1.4	2010年夏～2011年春	4	-1.7
2014年春～2016年春	9	+3.1	2017年秋～2018年春	3	-1.3
2018年秋～2019年春	3	+1.1	2020年夏～2021年春	4	-1.3
			2021年秋～2022/23年冬	6	-1.3
2023年春～2024年春	5	+2.3			

# 5～7月のエルニーニョ現象時の日本の天候の特徴

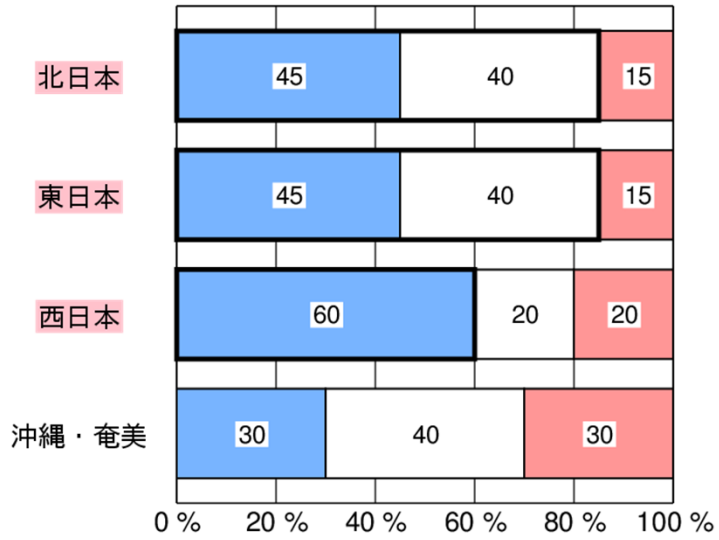


## 3か月（5～7月）の統計的に有意な傾向

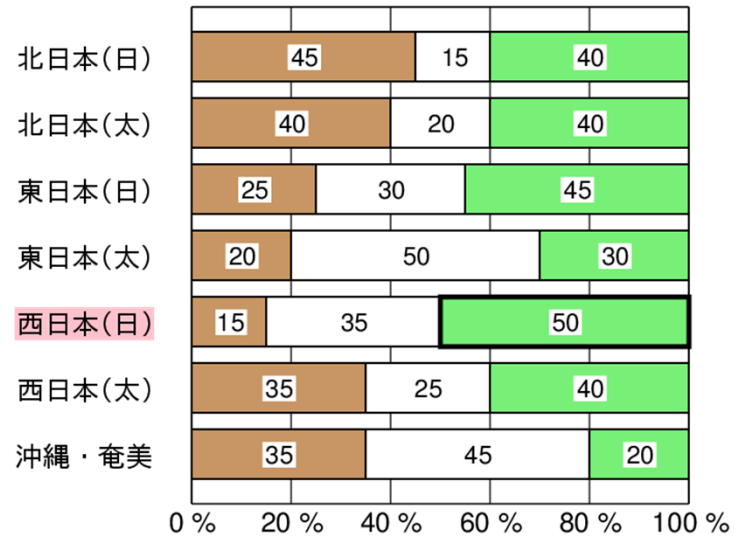
- ・気温：西日本で低い。
- ・降水量：西日本日本海側で多い。
- ・日照時間：有意な傾向はなし。

# 夏のエルニーニョ現象時の日本の天候の特徴

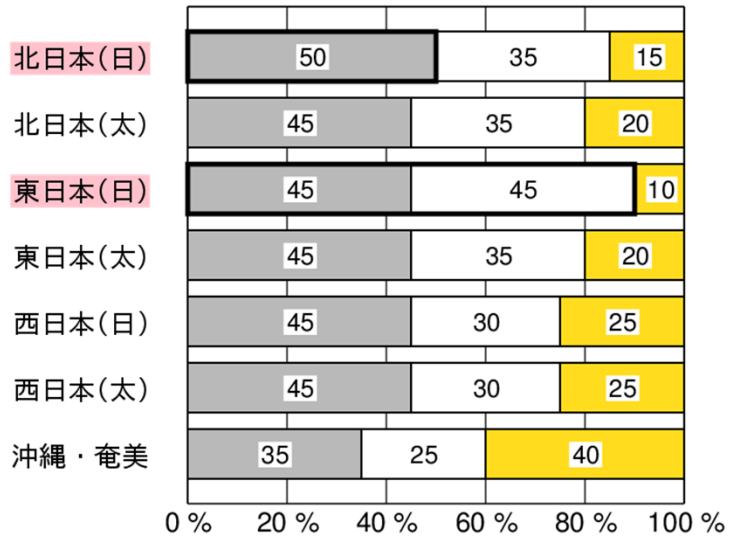
エルニーニョ現象が発生しているときの  
平均気温 <夏> 低い 並 高い



エルニーニョ現象が発生しているときの  
降水量 <夏> 少ない 並 多い



エルニーニョ現象が発生しているときの  
日照時間 <夏> 少ない 並 多い

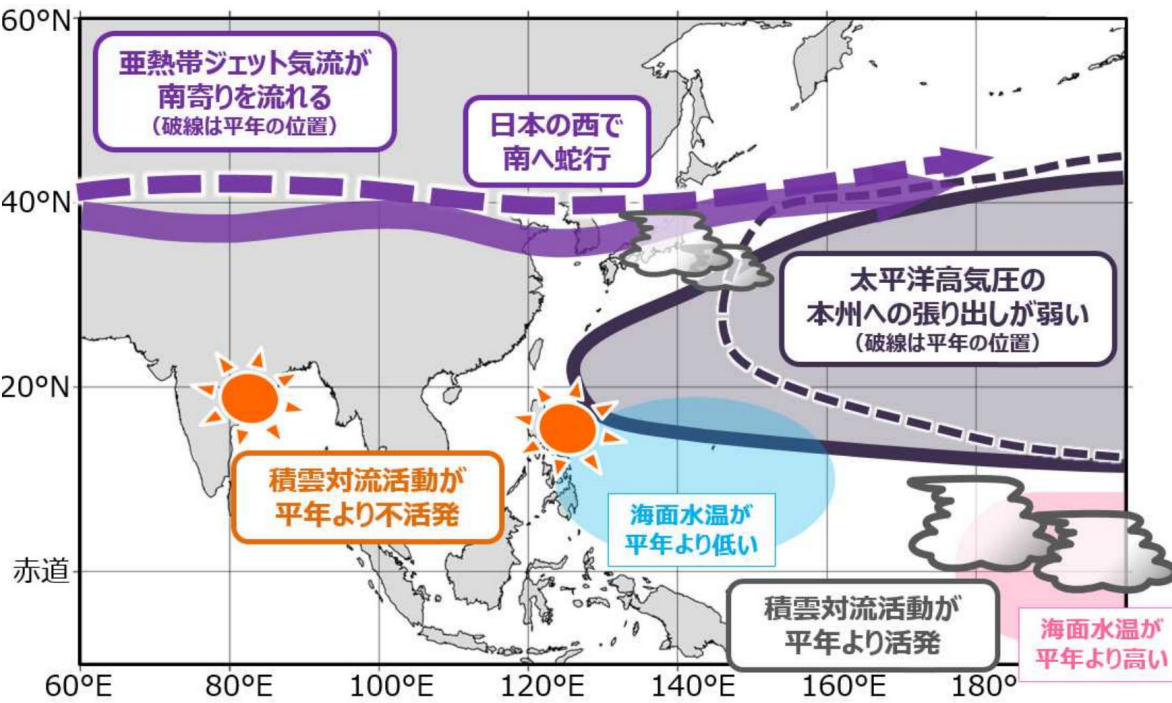


## 3か月（6～8月）の統計的に有意な傾向

- ・気温：北・東日本で平年並か低い。  
西日本で低い。
- ・降水量：西日本日本海側で多い。
- ・日照時間：北日本日本海側で少ない。  
東日本日本海側で平年並か少ない

# エルニーニョ現象時の夏の海洋と大気の特徴

## エルニーニョ現象に伴う夏の海洋と大気の特徴



太平洋赤道域の海面水温  
西部：低い 中・東部：高い



太平洋赤道域の対流活動  
中・東部：活発  
インド付近、インドネシア付近：不活発  
フィリピン東方海上：不活発



赤道域対流活動の東西の偏りにより

- ✓ 上空の偏西風はユーラシア大陸～日本付近を南寄りに流れる
- ✓ 上空の偏西風は、日本の西で南に蛇行
- ✓ 太平洋高気圧の本州付近への張り出しが弱い

過去の統計（1948～2021年）では、  
気温：北・東・西日本で**低い**  
降水量：西日本日本海側  
（近畿日本海側・山陰や九州北部地方）で**多い**

今回の予報は、エルニーニョ現象への移行期で、太平洋赤道域中部でも海面水温が平年よりも高い状況が残る点を考慮（特に5～6月）。

図の出典：季節予報技術資料 第2巻（令和6年度）（気象庁）  
[https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/kisetsu\\_gijutsu/02/chapter1.pdf](https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/kisetsu_gijutsu/02/chapter1.pdf)

# 季節予報とは？



気象庁HP  
季節予報って何？



季節予報は、日々の天気ではなく、ある地域の大きな天候（平年の気候と比べて、どのくらい偏った天候か）を予報します。

**地域**：日本全国を11地方に分類（右図）

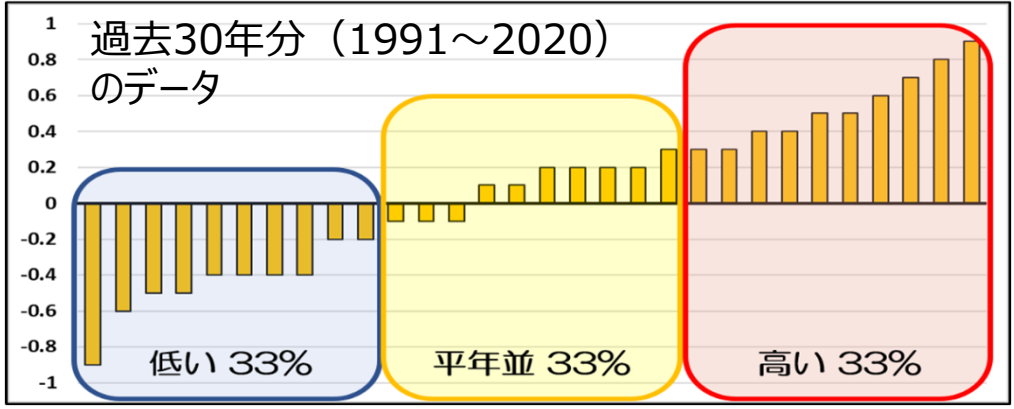
## 予報する要素

- 例) 1か月間、3か月間の平均気温
- 1か月間、3か月間の降水量
- 1か月間、3か月間の日照時間 など

## 予報区

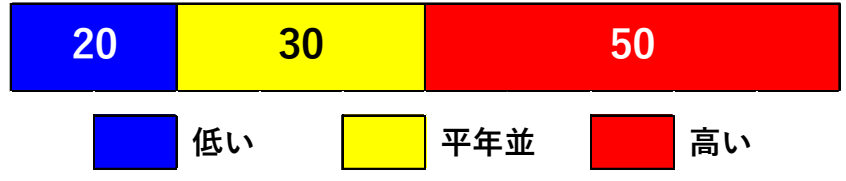


予報は3つの階級  
低い（少ない）・平年並・高い（多い）の  
どの階級に入るかを予報します



現在が平年値期間の30年と同じ気候だとした場合、「高い」「平年並」「低い」という階級になる可能性は、それぞれ33%。

## 予報例 向こう3か月の気温



高くなる確率は50%  
平年並か低くなる確率も50%